

市販薬のオーバードーズ

いよいよ新潟でも 新潟日報が報じる

(2024年12月)

東京や大阪のような大都会ではなく、新潟県でも若年層を中心に市販薬を過剰摂取するオーバードーズ（OD）が増えていることを、12月15日付の新潟日報が報じた。ODは一時的な高揚感を得られることもあるとされるが、意識障害などの健康被害や、最悪の場合は死亡する恐れもある危険な行為である。同紙によると、新潟市消防局の管内で集計されたODによるとみられる救急搬送者は増加傾向にあり、2023年には174人に上っていた。また、データがある2020年以降は、いずれの年も10代と20代の若年層が約半数を占め、女性が全体の7～8割と多いとのことだった。これを受け、県感染症対策・薬務課は「県全体のデータはないが、全県的にODが増加傾向にある」と指摘している。

幸いなことに、病医院から処方される処方薬での事例は見当たらない。処方薬には、名前こそ挙げられないが、依存性や中毒性のあるオピオイド系鎮痛薬や鎮咳薬、認知症や誤嚥の恐れがあるベンゾジアゼピン系睡眠薬、覚せい作用のある中枢神経刺激薬、幻覚や妄想の恐れがある抗うつ薬、依存性のある痩身薬など、市販薬よりも危険な薬物が多い。しかし最近、日本における処方薬の違法取引（転売）に関する研究論文が報告された（Hakariya H et al.(2024) "Illicit Trade of Prescription Medications Through X Formerly Twitter in Japan Cross-Sectional Study"）。論文は、処方薬が非医療使用されて過剰摂取を引き起こし深刻な公衆衛生問題となっていることから、研究としてX（旧 Twitter）で取引される薬物の特徴と投稿に関する行動を分析したところ、約2週間で渉猟した961件の投稿のうち、549件が研究対象に該当し、そのうち119件が自己投与、237件が取引（転売）に関連していたと報告した。

SNSを介した処方薬の違法な取引（転売）については、違法取引を防止し、適切な医療資源へ誘導するように関係省庁や麻薬取締官の活躍に期待したい。